

天橋立公園の松並木と
利用を考える会
第2回検討会

平成17年11月11日

1

松のあるべき姿について

2

現在の松並木の植生状況

- 天橋立の植生状況は以下の4種類に分けられる

クロマツ林	クロマツが優占する林
遷移進行型林	クロマツ林から針広混交林への移行段階の林
針広混交林	タブノキ・クロマツが優占する遷移の進んだ林
常緑広葉樹林	タブノキなどの常緑広葉樹が優占する林

3

現在の松並木の植生状況



4

光環境

- 多くの箇所で、**高い植栽密度、樹冠の広がり**や**広葉樹**により下層まで光が届かない状況

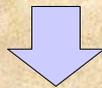


- 松の生育を阻害
- 暗い林内でも生育可能な**常緑広葉樹との競争に負ける**
- **本数密度の高さと上層の樹幹の広がり**が原因と考えられる

5

土壌環境

- マツ林の保全育成のために、**客土の搬入や土壌改良**が行なわれている

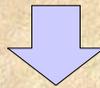


- 客土層の透水性は低く、堅密度は高いため、マツの根系の**酸素不足、根系発達の阻害**
- 養分状態が良くなり、**松以外の植物も生育可能**

6

菌類調査

- 天橋立神社付近、踏圧の影響を受ける場所、クズ等の草本類に覆われている場所は菌根菌が少ない

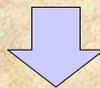


- マツの根系密度は低く、不健全
- **土壌の富栄養化**を示す腐植性の菌類が見られた

7

pHの状況

- 植生の発達していない海に接近した砂浜のpHは8前後
- 天橋立のpHは**5から6の範囲**



- 他の海岸マツ林と同様であり、**マツ等の生育を阻害するものではない**

8

地下水位

- 季節による変動があり、夏季に高く、冬季に低下
- 夏季の地下水位は地表から約50cm
- 水中で根は生存できないため、土中深くまで進入できない

9

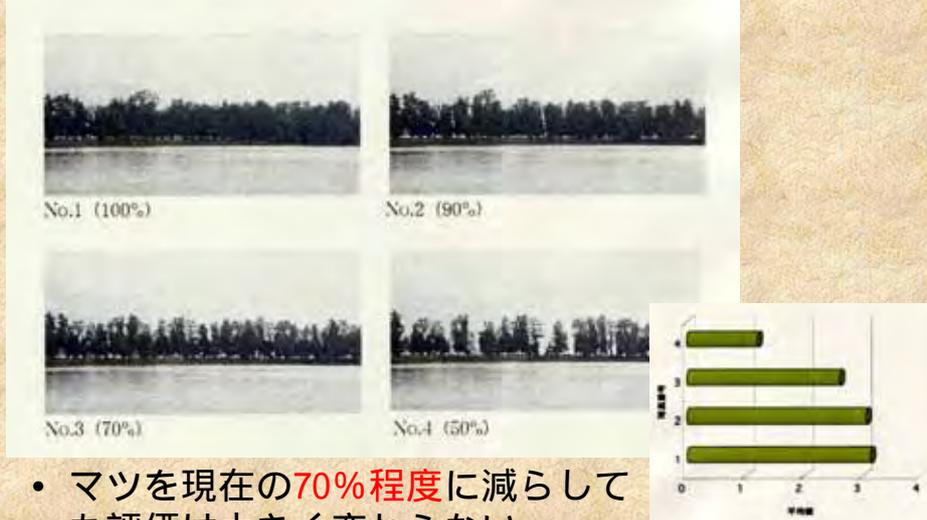
景観上適切と思われる松の密度と 管理に対する住民の考え方

調査方法

時期：2003年1～2月
対象：天橋立を守る会の会員を中心とする天橋立周辺に在住の住民等200名
回答者数：男性76名 女性32名 計108名
(回収率55%)
方法：郵送によるアンケート調査

景観上適切と思われる松の密度

(近距離 視点から240m未満)



- マツを現在の**70%程度**に減らしても評価は大きく変わらない

11

住民アンケート調査結果

12

調査概要

対 象：宮津市及び岩滝町在住18歳以上の住民1,000名

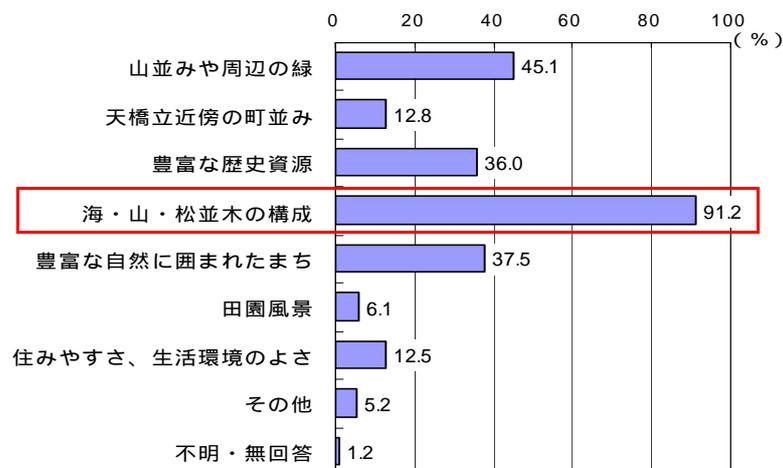
調査手法：自記式によるアンケート

回収率：32.8%

(宮津市242名、岩滝町81名、不明5名)

13

天橋立周辺ですばらしいと思うもの
(問4:MA3、N=328)



14

天橋立の眺望景観の評価

(問7;SA、N=328)

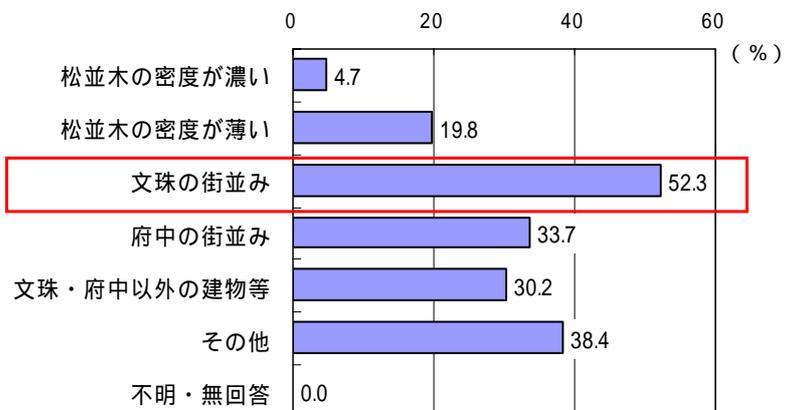
合わせて73.2%が満足と回答



15

天橋立眺望景観の問題点

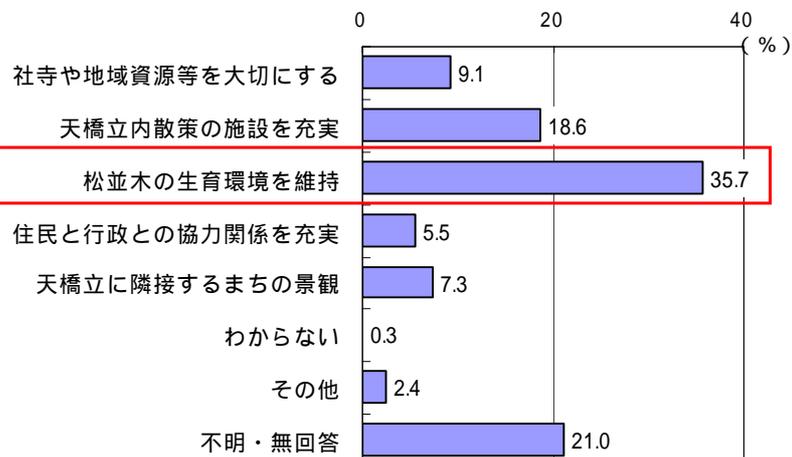
(問8;MA、n=86)



16

天橋立の景観を守るために重要なこと

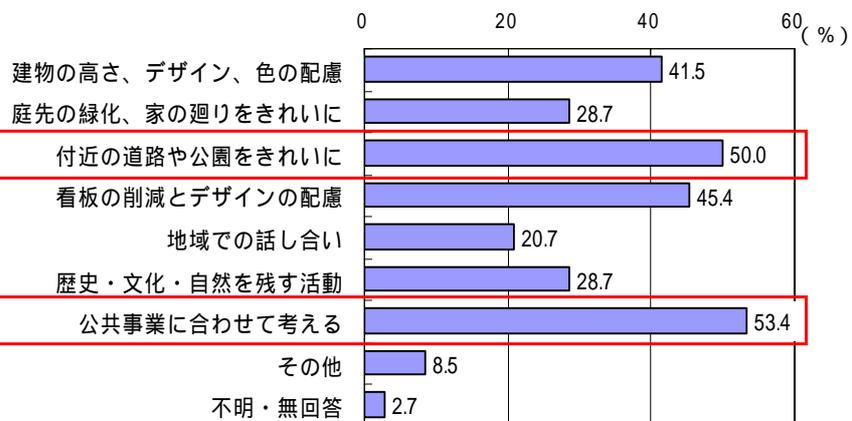
(問9;SA、N=328)



17

魅力ある景観まちづくりに重要なこと

(問10;MA、N=328)



18

来訪者アンケート調査結果

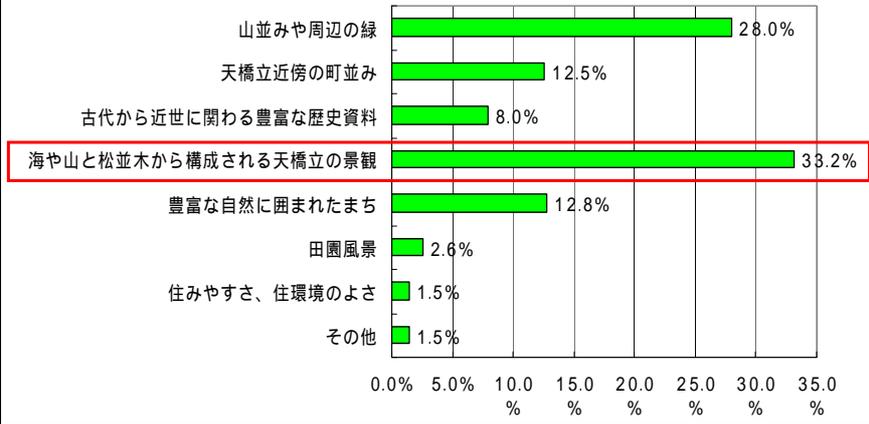
19

調査概要

対 象：天橋立の観光客418名
（宮津317名、岩滝101名）
調査手法：自記式によるアンケート

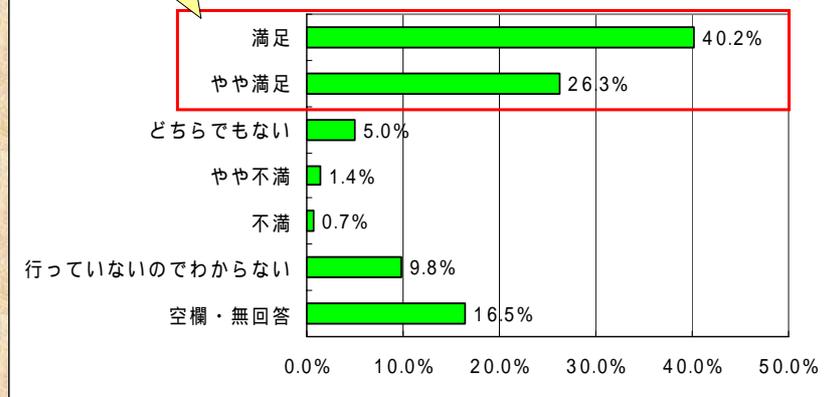
20

素晴らしいと思ったもの
((問11=MA3、N=742)

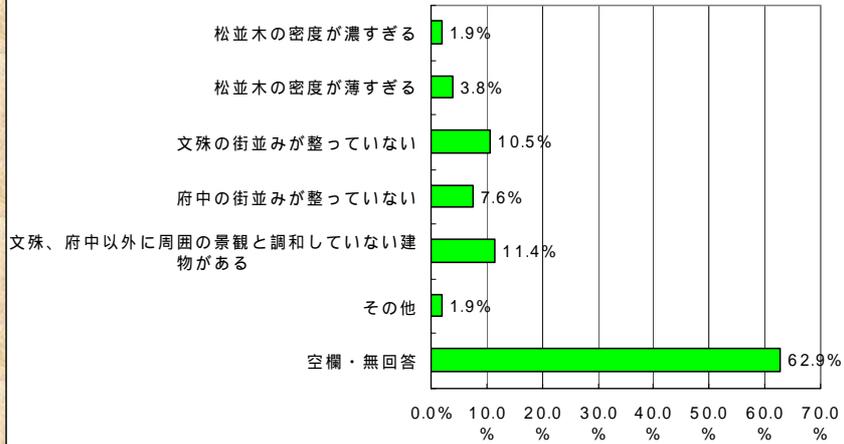


合わせて66.5%が満足と回答

現在の天橋立の眺望景観について
(問13=SA、N=418)



天橋立眺望景観の問題点
(問14=SA、N=105)



天橋立の景観を守ることについて重要と思われること
(問15=SA、N=388)

